第30回2014日本脳神経血管内治療学会抄録

演題名：
当院における急性期血行再建療法の治療成績
Results of endovascular recanalization therapy for acute ischemic stroke in our hospital

演者：
木村浩晃、赤路和則、**髙山洋平**、**志藤里香**、狩野忠滋、谷崎義生、美原盤

所属：
美原記念病院 神経内科
Department of Neurology, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan
美原記念病院 脳神経外科
Department of Neurosurgery, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan
美原記念病院脳卒中部門
The Cerebrovascular Division, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

【目的】Merci リトリーバーや Penumbra システム、ステント型リトリーバーが我が国においても導入され、これら血栓回収デバイスの使用を含めた急性期脳血管血行再建療法を経験し、その治療成績を検討した。
【方法】2010年10月から2014年7月に治療を行った急性期脳主幹動脈閉塞症41例を対象に患者背景、治療結果を検討した。
【成績】対象症例41例の内訳は、男性30例、女性11例、年齢は平均68.9歳だった。来院時NIHSSは4-35（中央値19)、前方循環系閉塞症例の ASPECTS-DWI は 4-10（中央値 7)、病型は心原性塞栓が 21例、アテローム血栓性梗塞が16例、その他が4例だった。閉塞血管

はICAが15例、M1が19例、M2が2例、VA-BA系が5例だった。41例のうち、rt-PA静注療法無効例が21例だった。デバイスはMerciリトリーバーが12例、Penumbraシステムが14例、Solitaireが1例、Trevoが1例に用いられた。再開通は、TICI 2B以上が22例(53.7%)だった。症候性頭蓋内出血を1例（2.4%）に認めた。3か月後mRS 0～2の予後良好例は12/40例（30.0%)、死亡例は2/40例（5.0%）だった。

【結論】新規血栓回収デバイスの使用を含めた急性期脳血管血行再建療法により良好な再開通を果たし得たが、閉塞部位や病型に応じて複数の手技を組み合わせて用いる必要があった。今後症例選択や用いる治療手技について更なる検討を要する。